

平成 30 年度

事業報告書

社会福祉法人 芳清会

目 次

I 総務課	1
II 事業部	2
〔1〕 各種委員会・会議等	2
〔2〕 研修	3
1. 外部研修	3
2. 内部研修	4
〔3〕 年間行事	4
〔4〕 アクティビティ	5
〔5〕 実習・見学等	6
1. 実習・見学受け入れ	6
2. 一般の見学	7
〔6〕 ボランティア	7
〔7〕 医務室	8
〔8〕 栄養	11
〔9〕 特別養護老人ホーム	14
1. 在籍	14
2. 退居	14
3. 新規入居	15
4. 入居申し込みと待機者状況	16
5. 入院実績	16
6. 受診実績	16
7. 要介護度推移	18
8. 平均年齢推移	18
9. 収入段階、利用料	18
10. 外出	19
11. 外泊	19
12. 面会	19
13. 相談員の業務を振り返って	19
14. その他	19
15. ケアプラン	20
16. 介護	20
〔10〕 デイサービス	21
〔11〕 ショートステイ	22
〔12〕 居宅介護支援事業所	23

I. 総務課

〔1〕 【自衛消防訓練等】

1. 第1回目

日 時 平成30年5月31日 午後2時から午後3時
内 容 総合訓練（避難・消火・夜間想定）
参加人数 約35名（職員・入居者・利用者）
届出関係 川越消防署届出



2. 第2回目

日 時 平成30年10月11日 午後2時から午後3時
内 容 総合訓練（避難・消火・夜間想定）
参加人数 約31名（職員・入居者・利用者）
届出関係 川越消防署届出

〔2〕 【職員健康診断】

1. 第1回目

日 時 平成30年8月23日・24日 午前9時から午後0時
内 容 全職員対象
受診人数 86名
協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院
健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・G O T・G P T・ γ -G T P・総コレステロール・H D L-コレステロール・中性脂肪・

血糖・ヘモグロビンA1C

2. 第2回目

日 時 平成31年2月27日 午前9時から午後0時

内 容 夜勤職員対象

受診人数 46名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・GOT・GPT・γ-GTP・総コレステロール・HDL-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

3. ストレスチェック

日 時 平成30年12月

内 容 全職員対象

受診人数 20名

協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

II 事業部

〔1〕各種委員会・会議等

1. 衛生管理委員会

産業医の指導の下、入居者様や介護従事者の健康管理について検討を行った。特にインフルエンザやノロウイルスなどの感染症については情報の共有を徹底し、発生・感染しないように加湿や洗い方法、症状が見られた際の早めの対応等の体制を検討し、整えた。また、施設内備品の配置や扱い方、保管方法についても、産業医による巡回指導を実施した。また職員の健康診断、ストレスチェックを実施し、その結果についても再検診等の指導を行った。

2. 事故・身体拘束防止委員会

委員会では、それぞれの事故についての原因究明と再発防止に努め、全職員が統一した認識を持って事故防止に取り組めるよう、施設内で起きた全ての事例を、全ての部署で確認できるようにした。

3. 褥瘡対策委員会

現在褥瘡が発症している方の状態報告と、褥瘡になる可能性がある方について、看護師と栄養士、介護職を協同して改善策を検討した。

4. 排泄委員会

「おむつゼロ」への取り組みで、排泄習慣の確認や排便状況の情報収集を行った。おむつ使用量の減少や、摂取水分量の増加、下剤使用量の減少など、一定の成果が見られた。オムツ対応だった方をトイレに誘導する機会も増えている。陰部洗浄も積極的に行った。より良い排泄介助、より良い介護の提供へと取り組んでいく。

5. 医療的ケア安全対策委員会

認定特定行為業務従事者登録を行った介護職員が、看護師の指導にて安全に医

療的ケアが行えるよう、その仕組みや方法について検討した。

7. ケアプラン会議

ア) カンファレンスの開催

ケアプラン会議を開催し、入居者様のケアプランを作成した。それぞれの担当職員と他職種間で意見交換を行い作成した。

イ) 看取り介護

看取り介護に関して情報共有を徹底し、ご家族を交えた話し合いの中で、その都度看取り介護体制の整備に努めた。また、看取り介護を終えた方については後の振り返りの中で、看取り介護についての体制作り、心構えを改めて確認した。今後も看取り介護に取り組む機会が増えていくと思われるので、ご家族や医師、各職種間で協力して取り組んでいきたい。

8. 入居検討委員会

今年度も申込書の記入内容と相談内容により、県の優先順位の規定に基づき検討した事が確認されている。

9. 入居判定会議

入居申込者の中から優先順位の高い方の面談調査を行い、ご家族の意向とご本人の状態を基に、各フロアでの対応と生活介護上の課題について検討し、会議で検討された方は全員入居可となった。

〔2〕研修

1. 外部研修

研修日	研修名	参加人数
6月19日	安全運転管理者等講習	1名
6月28日	感染症基礎研修	3名
7月14日	デイサービス稼働率アップセミナー	1名
7月21日	認知症ケア学会関東I地域部会I	1名
7月26日	RICOH Value Presentation2018	1名
8月20日	施設看護師の専門性と具体的な働き方	1名
9月26日	認知症介護事業者全体研修会	1名
9月28日	アクティブ福祉 in 東京 '18	1名
10月10日	ノロウイルス研修会	1名
10月22日	認知症介護事業者全体研修	1名
10月31日	ターミナルケア研修	1名
11月5日 ～6日	介護施設における看取りケア研修	2名
11月7日	メディカルケアサポートセミナー in 越谷	1名
11月8日 ～12日	介護施設における看取りケア研修	2名
11月16日	瘡対策・感染対策研修	1名
11月27日	介護職員のための医療・薬の基礎知識	3名
11月29日	福祉施設のためのリスクマネジメントセミナー	1名

11月30日	介護留学生支援に関する説明会	1名
12月3日	埼玉県老施協調理員・栄養士研修会	1名
12月11日	福祉施設関係者 感染症予防研修会	3名
1月17日	次期介護報酬改定を見据えた戦略と収益向上対策	1名
1月8日 ～24日	チューター養成研修	1名
2月5日	外国人技能実習制度活用セミナー	1名
2月14日	企業活動と身近な人権課題	1名
2月20日	埼玉県キャラバンメイトフォローアップ研修	1名
合計		33名

2. 内部研修

研修日	研修内容	参加人数
5月25日	感染症研修会	22名
6月8日	事故防止研修会	20名
7月13日	介護研修会	18名
8月24日	介護研修会	17名
9月26日	看取り介護研修会	23名
10月17日	褥瘡予防研修会	21名
11月9日	感染症研修会	23名
11月26日	看取り介護研修会	20名
11月29日	看取り介護研修会	18名
12月26日	看取り介護研修会	18名
1月25日	褥瘡研修会	21名
3月12日	AED心肺蘇生研修	22名
合計		243名

〔3〕年間行事

月日	行事名	行事内容
4月上旬	お花見	日東団地周辺等
6月4日	収穫祭 (梅狩り)	収穫した梅の実で梅ジュースを作った。
5月22日	まきば保育園 訪問	近隣の保育園児が来所し、手遊びを披露した。かわいい子供たちとの交流で、たくさんの笑顔を見ることができた。
9月10日	敬老会	敬老会を開催した。昼食会を楽しまれた。
10月7日	八瀬の里祭り	お囃子、模擬店開催と、賑やかなお祭りを味わって頂いたご家族も来所され、最後は参加者全員で記念撮影を行い、終了となった。

11月13日	まきば保育園 訪問	保育園児が来所し、手遊びを披露した。かわいい子供たちとの直接交流で、生き生きとした笑顔を見ることができた。
11月23日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。
11月28日	大東西小学校 JRC 活動	23名の小学生が来所し、リコーダーの演奏やコマ回し、紙芝居、折り紙、けん玉等を披露して交流を図った。デイサービス利用者19名の方が楽しまれた。

〔4〕アクティビティ

各ユニットで企画された、季節に応じたアクティビティが、下記の通りに実施された。

表1. 実施アクティビティ一覧

実施日	参加人数	「食」関連	誕生会	季節関連	買い物、行き先	行き先の地域資源
4月	29	おやつレク	誕生会	花見	イオン	
	33	おやつレク	誕生会	花見	サンパーク奥富	サンパーク奥富
	18		誕生会	花見	水上公園	水上公園
	8	レストラン外食	誕生会		とんでん、ガスト	
	31	寿司三昧		花見	日東公園	日東公園
	16			花見	白山神社	白山神社
5月	16	おやつレク	誕生会		箆屋	箆屋
	8		誕生日会	薔薇鑑賞	智光山公園	智光山公園
	6		誕生会	新緑鑑賞	増形近隣	
	9			新緑鑑賞	増形近隣	近隣田園
	17	おやつレク				
6月	8	外食			とんでん	
	12	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	9	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	23			演奏会		
7月	13	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	18	そうめんレク		素麺		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	3				ダイソー、まるひろ	
	4	ラーメン	誕生会		イオンモール	
8月	59	カキ氷レク		カキ氷		
	11	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	7	おやつレク	誕生会	ケーキ		
9月	8			秋散歩	水上公園	水上公園
	27	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	11		誕生会	演奏会		
	5	お弁当外食			イオン	入間川
	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		

10月	4	外食		ラーメン	イオン	
	6	寿司	誕生会	寿司	がってん寿司	がってん寿司
	8	おやつレク		親睦会		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	7			近隣散歩		大袋～山城
	6	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	5	寿司		寿司	はま寿司	
	9			演奏会		
	5	おやつレク	誕生会	ケーキ		
11月	6	アイスクリーム		市場見学		卸売市場
	1	ステーキ	誕生会	ステーキ	ガスト	ガスト
	14	食事レク	誕生会	たこ焼き		
	18	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	14	食事レク	誕生会	お好み焼き		
	5	食事レク	誕生会	たこ焼き		
	8	食事レク	誕生会	たこ焼き		
12月	28	寿司		クリスマス	銀のさら	
	1	ハンバーグ		ハンバーグ	ガスト	ガスト
	32			クリスマス		
	30			クリスマス		
	25			クリスマス		
1月	11			初詣	白山神社	白山神社
	5			初詣	白山神社	白山神社
	16			初詣	白山神社	白山神社
	3			初詣	白山神社	白山神社
	11	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	12	おやつレク	誕生会	ケーキ		
2月	9	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	12	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	10	おやつレク	誕生会	たこ焼き		
3月	23	茶話会		桃の節句		
	10	おやつレク	誕生会	ケーキ		

〔5〕実習・見学等

1. 実習・見学等受入

項 目	実習日時	人数	内 容・目 的
大東西小学校町探検	11月9日	23名	地域の小学生が町の社会資源を探検して回る活動で、見聞を広める。

川越市立大東中学校社会 体験学習	2月18日～20日	2名	学校では得られない経験を通して、豊かな感性や社会性、自立心を養い、豊かに生きる力を育む。
川越市立大東西中学校 社会体験学習	2月18日～20日	3名	
計	3件	28名	

2. 一般の見学

月	件数	人数(名)	月	件数	人数(名)
4月	8	10	10月	3	9
5月	2	3	11月	2	3
6月	6	10	12月	4	7
7月	1	4	1月	1	3
8月	3	7	2月	5	7
9月	1	2	3月	3	5
			合計	39件	70名

〔6〕ボランティア

月	件数	人数	詳細
	人数		
4月	16件	31人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、琴
5月	12件	21人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
6月	19件	41人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、どじょうすくい、民謡
7月	20件	26人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、琴
8月	19件	30人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、フラダンス
9月	17件	29人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
10月	17件	38人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、八瀬の里祭、大正琴
11月	19件	32人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、琴、大正琴、サックス演奏
12月	18件	20人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、フラダンス、サックス演奏

1月	13件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴
	19人	
2月	18件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、サクソ演奏
	32人	
3月	15件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、歌、舞踊、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴
	25人	
合計	203件	
	344人	

〔7〕 医務室

『健康管理』に伴う基本方針に基づき、入居者様および利用者様に対し健康管理および医療処置を行った。

「健康管理」に伴う基本方針

- ・ 入居者様の生活に障害となる疾病や症状に対して、健康面からの管理を行った。如何にその人らしく生活出来るかの可能性を探り、入居者様自身がどんな生活を望んでいるかと言う視点で、入居者様が毎日の生活を快適に過ごすことが出来る様サポートした。
- ・ 特に、疾病予防医療に重点を置き、どんな方法を使えば状態を維持出来るか、あるいは、苦痛無く回復出来るかを検討し、他の職種間との協働で健康管理サービスを提供した。
- ・ それぞれの入居者様の意思（ライフスタイル）を尊重し、入居者様自身、また、ご家族がどのような最期を望んでいるかを把握し、入居者様のリビングウィルに対応した健康管理サービス（医療処置）を提供した。

1. 予防医療

ア. 入居者様の健康状態の把握

嘱託医による回診を月1回実施した。

イ. 医療機関および医師による検診の実施

(1) 健康診断の実施

川越市に住所のある入居者 90 名様（入院者 2 名を除く）に対し、帯津三敬病院の医師および看護師が八瀬の里に出張して健康診断を実施し、結果を配置医に報告し入居者様の診察をした。

- ・ 健康診断実施日：平成 30 年 10 月 23 日
- ・ 健康診断受診結果については配置医へ回診時に報告。受診結果に応じて配置医から出された指示に基づき、ご家族に連絡の上、提携病院での受診対応を行なった。

(2) 狭山市に住所のある入居者 5 名様は提携病院(狭山市内)で健康診断を実施した。

(3) 入居期間の短い入居者様については、入居前に健康診断を実施済みのため省略した。(該当者 1 名)

ウ. 流行性疾患蔓延の予防

- (1) 肺炎球菌ワクチン接種を希望者1名に実施した。
- (2) インフルエンザ予防接種の実施。

・実施日：平成30年11月8日〔入居者様：89名、職員：85名（内別日11名）〕

エ. 感染の予防

- (1) インフルエンザ、ノロウイルスの流行期にあたる11月から4月の間は、職員全員マスク着用とし検温を実施した。また、職員、入居者様に発熱があり感染症が疑われる場合は、職員全員が周知出来る様、職員玄関に表示し蔓延予防につとめた。
- (2) 感染症の疑いのある入居者様については、早期隔離につとめ、感染の拡大を防いだ。
- (3) 感染症対策委員会を定期的を開催し、施設職員が情報を共有し対策が取れる様にした。

【内部研修】

- ・平成30年5月25日 感染症予防研修会：食中毒
- ・平成30年11月9日 感染症予防研修会：インフルエンザ・ノロウイルス

【外部研修】

- ・平成30年10月10日 感染症研修会

2. 治療医療

ア. 的確な症状の把握

- (1) 介護職員の報告を把握し、バイタルサインの確認、異常症状発生以前からの状態の確認と変化した全身の状態を観察した。
- (2) 医療機関およびご家族等の関係者からの入居者様情報の入手に努め、入手した情報を関係者に確実に連絡し、情報の共有化を図った。
- (3) 必要時に医療機関を受診し、また、定期受診を継続した。※1月別受診表参照

イ. 症状に適した処置の実施

- (1) 症状に応じた対症療法を指示または実施した。
- (2) 配置医の指示を仰ぎ、入居者様の処置を行った。特別な医療処置が必要な入居者様に対して、日常必要な医療処置の経管栄養・吸引・外科的・皮膚科的・泌尿器科的処置、湿布、点眼を実施した。

ウ. 内服治療への援助

- (1) 配置医による定時薬の服薬継続の確認を月1回おこなった。臨時薬については回診時の診察、状態報告にて継続の確認をおこなった。
- (2) 臨時薬が処方された際は内容、内服方法を介護職へ申し送った。
- (3) 内服方法について個々の状態に合わせ錠剤を粉薬にするなどの対応をした。

※1月別受診表

受診科 月	内科	外科	整形外科	眼科	耳鼻科	皮膚科	脳外科	精神科	乳腺外科	循環器	内分泌	神経内科	口腔外科	歯科	泌尿器科	形成外科	救急外来	合計
	4月	11	2	7	2		4		1									1
5月	11		5	2		5		2				1						26
6月	9	2	2	3		3	1	1								2		23
7月	9		5	1		1	2	3									2	23
8月	15	1	4	2		5	1	1				1			1		3	34
9月	19	1	4	1		4		2				1			2		1	35
10月	21		7	1		4			1						5		2	41
11月	17		4		1	2	1	2	1						1		1	30
12月	13	3	2	2		2	2		1						2	1		28
1月	13	4	4	1		3		2	1			1			1		3	33
2月	8	1	2	2		4			1						2		1	21
3月	14	1	6	4		3	1	2	1	1		1		3			4	41
計	160	15	52	21	1	40	8	16	6	1		5		3	14	3	18	363

エ. 褥瘡の予防

(1) 毎月、第一金曜日に褥瘡予防対策委員会を開催し、褥瘡発生者、予防者について対応策を検討した。

- ① 褥瘡発生者、予防者について清潔・栄養・除圧の側面から評価し必要なケアを検討して実施出来るよう助言した。
- ② 褥瘡発生者について医師の診察のもと適切な処置をおこない、褥瘡の状態・処置内容を他職種と共有した。
- ③ 褥瘡予防者の皮膚の観察を行い、状態を報告し必要なケアを検討した。

(2) 褥瘡予防に対する理解を深めるため、内部研修を行い外部研修にも参加した。

【内部研修】

- ・平成31年1月25日 褥瘡予防研修会

【外部研修】

- ・平成30年11月16日 褥瘡対策・感染対策研修

3. 入居者様の意思を尊重した健康管理サービスの提供

- ・入居時および入居後の健康状態の変化に合わせ、リビングウィルを確認した。
- ・入居者様、ご家族に確認後、受診・治療をすすめていった。

4. 看取り介護への取り組み

- ア. 看取りの時期について配置医の判断を仰いだ。また、看取りについてご家族が理解し納得されたかを相談員、介護職、介護支援専門員と確認した。さらに、入居者様およびご家族の死に関する要望を確認した。
- イ. 入居者様の状態変化の際はご家族様への報告を指示または実施した。
- ウ. 入居者様の夜間の急変時に備え、看護師は24時間のオンコール体制を取った。エ. 提携病院と受け入れの打ち合わせをおこなった。
 - ・平成30年度看取り対応：入居者様7名 実施した。

5. 均一な医療サービスの提供

- ア. 毎朝の申し送りとカンファレンスを随時実施し、入所者様の状態の把握や情報を医務内で共有した。
- イ. 実施した医療処置、健康状態、受診結果について記録に残し、併せて緊急時に適切な対応が取れるよう、関係部署との連携を図った。
- ウ. 介護職員への研修を実施して協働連携し、医療事故の防止に努めた。また、医療的ケア会議（5回/年）によりケアの再確認ができた。

6. 災害・非常時への準備

- ア. 災害・非常時においても、入居者様、職員、地域の方々へ対応できるように保管場所（3階エレベーター前倉庫）において応急処置用品の確認を行った。
- イ. 入居者様の非常時持ち出し品一覧表を確認し、全職員が周知し実際に行動できるように準備した。
- ウ. 応急処置物品の管理に関しては消費期限があるため、数量の検討と物品を見直した。（平成31年3月）

7. ショートステイ利用者様への対応

- ア. ショートステイの申し送りに参加し情報把握に努めた。
- イ. ショートステイ利用者様の心身状態を観察し、必要に応じて医療処置を行った。
- ウ. ショートステイ利用者様の急変時、受診の要否を判断し、状況に応じた適切な対応を行った。
- エ. 夜間におけるショートステイ利用者様の急変のオンコールに対し、必要な対応を指示した。

〔8〕栄養科

1. 食の改善計画

基本方針として、「食べる喜びを、生きる喜びへつなげる食事提供」「個人への最適な栄養ケア」「口腔機能の維持向上にむけた支援」の三点を挙げ活動を行なった。

ア) 2F

入居者様の嗜好や要望に沿った食事内容を検討し提供を行った。おやつレクリエーションでは、入居者様と一緒にパンケーキなど簡単なおやつの調理を行い、誕生日会にはロールケーキを提供した。食事レクでは、そうめんやた

こ焼き、お好み焼き、サンドイッチなどユニット職員と協力して企画・調理を行い、見た目でも楽しめる提供を心掛けた。

イ) 3F

入居者様の状態に合わせ、誕生日会には入居者様全員が食べることのできるプリンアラモードを提供した。食事レクでは、入居者様の意向に沿って、お好み焼きやたこ焼き、手まり寿司、鍋などバリエーションに富んだ食事を提供し、楽しくおいしい食事レクを実施した。

ウ) 4F

入居者様の身体状況や嗜好、食べやすい食事形態に配慮し、出来る限り個々の状態に合わせた形態の提供が出来た。おやつレクでは、ロールケーキを中心に、嚥下状態に合せプリンをデコレーションし、手作りの雰囲気を楽しみながら、食欲増進につなげることができた。

エ) デイサービス

どの利用者様にも満足して頂ける食事提供を目標とし、食事内容の一部を変更した献立や数種類のおやつを提供した。月に一度、季節感のある食材を使用した昼食バイキングやおやつバイキングを実施、選ぶ楽しみを味わって頂き、食事の雰囲気作りにも配慮したサービスの提供ができた。その他、誕生日のロールケーキ、プリンの提供や利用者様と職員と一緒に簡単なおやつ作りをし、親交を深めるレクリエーションが多かった。

オ) ショートステイ

利用者様の状態に適した食事形態を検討し、様々な個人の嗜好に合わせ禁食代替食材を準備し食事提供を行った。また月1回程度、ロールケーキやプリンアラモードで利用者様のお誕生日をお祝いした。

2. 栄養ケアマネジメント

- (1) 入居者様全員を対象とし、栄養ケア計画書の作成を行なった。栄養スクリーニングを行い、アセスメントを実施すると共に中・高リスク者の把握を行い、高リスク者は2週間に1度、中リスク者は1か月に1度モニタリングを実施しながら、3か月ごとの評価を基にプランの確認や変更を行った。低体重や体重が減少傾向にある方、食事摂取不良や体調不良の方への対応として、各部署と情報を共有し、補食や嗜好に合った食事を提供しながら日々の体調管理に努めた。また、嚥下機能が低下した方への食事内容の検討を行った。
- (2) 食事環境の把握をする為に各ユニットの担当介護職員から入居者様の体調や普段の食事状況について情報収集を行い、入居者様からは食事に対する様々なご意見をいただいた。
- (3) 個別の食事対応としては、毎朝パン食・おにぎり食・牛乳の代わりにヨーグルトやジュースでの提供を実施した。その他、嗜好品としては野菜ジュースやみそ類提供、水分摂取強化には水分補給ゼリー、体重コントロールの為に低エネルギー甘味料の提供を行った。
- (4) 嚥下機能低下によるミキサー粥対象者の増加に伴い、形態の検討を行った。これまで提供していた糊状の粥を、増粘剤を変更することによりゼリー状に調理して嚥下しやすい形態に調整した。

- (5) 排便コントロールを図るため、水溶性食物繊維の提供を行った。個々の排便パターンや食事・水分摂取量のチェックを行い、看護職員・介護職員と連携しながら必要に応じて食物繊維の調整（10g～30g）を行った。
個人によって効果の差はあるが、排便リズムが整い、改善傾向の方もいる為、今後も継続していく。

3. 栄養管理

- (1) 施設食事サービス業務全般において総括し、各施設内関係部門との連絡調整、委託業者への指示を行った。
- (2) 献立の確認・指示、食数の指示・管理、食事箋の作成・管理、嗜好調査の実施、検食の実施と検食簿の記入・管理、関係官庁等に提出する給食関係の書類の作成・確認・提出・保管・管理を行った。
- (3) 毎月一度（第四火曜日）に栄養管理委員会を実施し、各部署と委託業者と食事対応や提供メニューの内容について良かった点や改善すべき点を話し合った。年度初めには年間のテーマを決め、食欲向上に向けた取り組みを行った。※平成30年度テーマ「楽しく食べる」
また、褥瘡委員会や排泄委員会との連携を図り、栄養状態に課題がある入居者様への対応を話し合った。

4. 委託業者との連携

- (1) 調理作業全般、食材管理、施設設備管理、厨房内衛生管理において、委託業者の栄養士と連携を取り、管理を行った。
- (2) 労働安全、衛生の管理として、施設栄養士を含む、調理作業に携わる調理師、栄養士全員を対象に、検便を定期的の実施した。
※平成30年12月27日炊飯器入替

5. 行事食、食事レクリエーション等の実施

- (1) 季節感を味わって頂く為、年中行事を中心とした行事食を月に1度の割合で提供した。
- (2) フロア企画のレクリエーションとして、喫茶サービスや季節にちなんだおやつ提供、昼食バイキングを行った。献立の調整、食材の発注・管理、調理工程の確認をして実施した。
- (3) 『0のつく日はめんの日』『5のつく日はカレー・ハヤシの日』とし、年間テーマである「楽しく食べる」を実践した。

6. 老人福祉施設栄養士情報連絡会への参加

※参加者少数のため中止となる。

〔9〕特別養護老人ホーム

1. 在 籍

入居者様の年齢が高齢なる中で、長期入院、看取り介護の状況がある。3月31日の在籍者は91人となっている。

療養型施設への転出、入院の長期化や死亡等での空室日数があり、平成30年度の在居率は91.5%、平均在籍者数93.9名である。

次に入居して頂く対象者へは、当施設「優先入居に係わる取扱規定」による優先順位に基づき、入居順位検討結果を平成31年3月末に送付している。ご家族や関係者各位に連絡し、入居して頂けるように手続きを進め、平成30年度における退居日から新規入居日までの期間は平均約14.49日間である。

表1に示す通り、平成29年度の男女比率は、男性が34、女性66%となり、前年と同様に女性の入居割合が高くなっている。

表1. 平成30年度入居者男女比率（平成31年3月31日現在）

	平成29年度		平成30年度	
	人数	割合	人数	割合
男性	31名	33%	27名	34%
女性	64名	67%	64名	66%
合計	95名	100%	91名	100%

2. 退 居

表2に示すように、平成30年度の退居者は27名であった。

表2. 平成30年度退居者一覧

年 月	退居者数	退居理由
平成30年4月	1名	療養型1名
5月	2名	死亡1名（病院）療養型1名
7月	2名	死亡2名（病院2名）
8月	3名	死亡3名（看取り1名）療養型2名
9月	1名	死亡1名（病院）
10月	2名	死亡2名（病院）
11月	5名	死亡5名（病院4名）看取り1名
12月	3名	死亡3名（病院2名）看取り1名
平成31年1月	1名	死亡1名（病院）
2月	4名	死亡3名（病院1名）看取り2名 県外GH1名
3月	3名	死亡3名（病院1名）看取り2名
合計	27名	

表 3. 年度別退居者数の推移（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平 30	1	2	0	2	3	1	2	5	3	1	4	3	27
平 29	3	0	0	0	1	4	3	0	1	1	1	1	15

3. 新規入居

表 4 に示す通り、新規入居者様は 23 名、その内自宅待機 11 名、老人保健施設待機 4 名、病院 6 名、その他介護施設 2 名となっている。医療機関のサービスを継続的に利用しながら、特養を待機されている。自宅待機者の方々も、短期入所介護を利用されている。それぞれの部署と連携を取りながら、今後も迅速な入居に努める。

表 4. 平成 30 年度新規入居者一覧

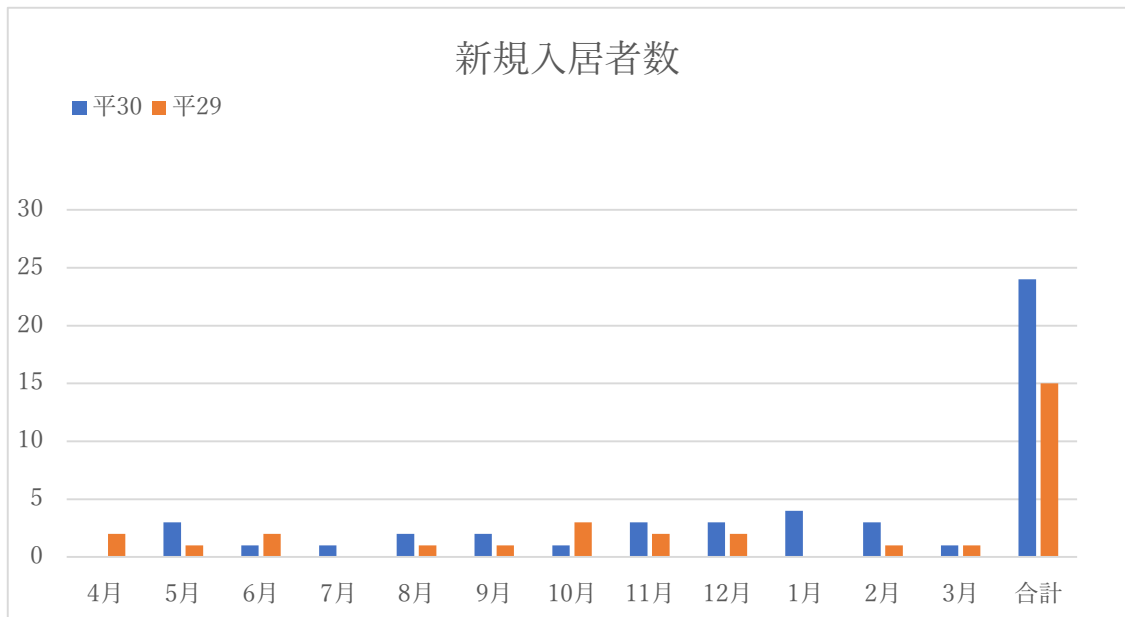
年 月	新規入居者数	入居前の居所
5月	3名	在宅2名 高齢者向け住宅1名
6月	1名	在宅1名
7月	1名	病院1名
8月	1名	病院1名 在宅1名
9月	2名	療養型1名 在宅1名
10月	1名	在宅1名
11月	3名	老健1名 在宅1名 病院1名
12月	3名	病院1名 療養型1名 在宅1名
平成31年1月	4名	老健2名 病院1名 在宅1名（措置）
2月	3名	病院1名 在宅2名
3月	1名	老健1名
合 計	23名	

表 5. 新規入居者の介護度と男女構成比

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
入居者(人)		1	9	10	4
女性		1	8	7	2
男性			1	3	2

表 6. 年度別新規入居者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平 30	0	3	1	1	2	2	1	3	3	4	3	1	24
平 29	2	1	2	0	1	1	3	2	2	0	1	1	15



4. 入居申込みと待機者状況

平成30年4月から平成31年3月の間の新規申込は28件であった。新設特養への流出や人口減少が主な理由と考えられる。平成31年3月末における入居待機者数は、164人となっている。

取下げ理由として、待機中の死亡が大半を占めている。

5. 入院実績の推移

平均入院期間が3週間超えである事から、急性期医療入院ではなく慢性期であるが退院が困難である事が顕著であった。

退院後の身体状況悪化（食意不良、褥瘡等）に伴い、医療的処置が大幅に増加した。

6. 受診実績

受診の頻度は、月平均にすると30.6回となり前年度より増加している。ご入居者様の高齢化を踏まえ、日常生活の健康状態について回診での診察、施設内における体調の経過記録からも、今後も状態変化に早めの対応が考慮される。

表8. 受診実績の推移（注：一部の検査関係は除き、家族対応を加えているので、医務の集計とは若干異なる）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平29年度 合計回数	26	15	20	19	26	33	34	24	29	44	19	25	314
平30年度 合計回数	39	23	45	34	33	31	33	35	28	23	19	24	367

平成 30 年度 在居者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	94	93	94	95	93	93	94	94	91	91	94	93
2日	94	93	94	95	93	93	94	94	91	91	93	93
3日	94	93	94	95	93	93	94	94	90	91	93	93
4日	94	93	94	95	91	93	95	94	90	91	93	93
5日	94	93	94	95	91	93	94	94	89	91	93	93
6日	94	93	94	95	91	93	94	95	89	91	93	91
7日	94	93	94	95	91	93	94	95	89	93	93	91
8日	94	93	94	95	91	93	94	94	89	92	94	91
9日	94	93	94	94	91	93	94	94	89	93	94	91
10日	94	93	94	94	91	93	94	94	89	93	94	91
11日	93	93	94	94	91	93	94	94	89	93	94	91
12日	93	93	94	94	91	93	94	94	89	93	94	91
13日	93	94	94	94	91	94	94	94	89	93	94	91
14日	93	94	94	94	91	94	94	93	89	93	94	91
15日	93	94	94	94	91	94	94	92	89	94	93	91
16日	93	94	94	94	91	94	94	92	89	94	93	90
17日	93	94	94	94	91	94	93	92	89	94	93	90
18日	93	94	94	94	91	94	93	92	90	94	92	90
19日	93	94	94	93	91	94	93	90	91	94	92	90
20日	93	94	85	93	91	94	93	90	91	94	92	90
21日	93	94	95	93	91	94	93	91	91	94	92	90
22日	93	93	95	93	91	94	93	91	91	94	92	90
23日	93	93	95	93	91	93	93	91	91	94	92	90
24日	93	94	95	93	91	93	93	91	91	94	91	90
25日	93	94	95	93	91	93	93	91	91	94	91	90
26日	93	94	95	93	91	93	93	91	91	94	91	90
27日	93	94	95	93	91	94	93	91	91	94	92	90
28日	93	94	95	93	92	94	93	91	91	94	93	91
29日	93	94	95	93	93	94	93	91	91	94	94	91
30日	93	95	95	93	93	94	93	91	91	94	93	91
31日	94	94	94	93	93	93	93	94	91	94	93	91
月間在居人数	2,800	2,901	2,821	2,909	2,834	2,804	2,900	2,775	2,701	2,887	2,599	2,919
定員数	2,976	2,976	2,880	2,976	2,976	2,880	2,976	2,880	2,976	2,976	2,688	2,976
平成 30 年度在居率	89.55	92.57	91.70	92.94	92.27	90.4	94.15	90.02	88.27	91.53	82.73	91.53

★平均在居率 92.2% 平均在居人数 93.9 人(年間在居人数 32,918 人 年間

定員数 35,040 人)

平成 29 年度在居率	89.78	93.21	93.45	95.70	94.35	90.99	91.66	90.63	96.14	91.33	85.32	94.05
-------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

★平均在居率 93.1% 平均在居人数 89.33 人(年間在居人数 32,609 人 年間

定員数 35,040 人)

7. 要介護度推移

表9の通り、身体の状態の変化が大きく、今年度一年間の介護度は、平均介護度3.8となっている。

表9. 要介護度の推移（平成29年度平均介護度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
介1(人)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
介2(人)	3	3	3	3	4	4	5	5	4	4	4	4
介3(人)	29	29	29	27	28	29	29	29	27	29	30	30
介4(人)	39	41	41	45	45	43	42	41	40	40	38	35
介5(人)	22	22	21	19	17	18	18	20	22	21	24	25
平30平均介護度	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
平29平均介護度	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8

8. 平均年齢推移

入居者平均年齢88.51歳（男性：82.94歳、女性：91.05歳）

表10. 平均年齢の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
女性	90.27	90.39	90.66	90.91	90.85	91.08	91.22	91.27	91.61	91.80	92.11	91.87
男性	82.66	82.74	82.83	82.95	83.03	82.24	83.40	83.49	83.45	82.92	83.00	82.83
平30年度全体	87.98	88.07	88.14	88.36	88.25	88.26	88.85	88.80	88.98	89.22	88.25	89.06
平29年度全体	86.99	87.32	87.40	87.48	87.55	87.61	87.59	87.30	87.51	87.65	87.74	87.88

9. 収入段階、利用料

収入段階による利用料は、第2,3段階が45名となっている。女性の新規入居者様のご家族が、負担限度額段階区分の申請をされ、自己負担の軽減を図られている。

	平成30年度末		平成29年度末	
	人数	構成比率(%)	人数	構成比率(%)
第1段階	0	0	0	0
第2段階	14	15	18	19
第3段階	31	34	30	32
第4段階	46	51	46	49
合計	91	100	94	100

10. 外出

平成30年4月1日から31年3月31日の間の、入居者様のご家族と外出した回数を示したものが表12である。外出要因として、主に自宅やご家族の家への外出や、外食、通院などが上げられる。

今年度は、のべ190名の方々が外出されている。

表12. 家族との外出回数

外出回数	人数	比率 (%)
5～10	49	27
4	37	19
3	50	26
2	35	18
1	19	10
0	0	0
計	190	100

11. 外泊

今年度は外泊の件数は3件(3名)となっている。特定の利用者様が複数回の外泊をされている。ご家族の希望、要望に沿って、介護タクシー手配、車椅子活用、各部署の事前連絡、状態確認も含め、今後も対応に努める。

12. 面会

今年度の面会者の総数は、延べ7,976人と多くの方に来て頂けた。1日の面会者の平均人数は21.8人であった。

ご家族が来所の際は、なるべく日頃のご様子を伝えることにしている。ほぼ毎日面会に来られるご家族もいらっしゃり、安心して生活を送れている。来年度も引き続き多くの方に面会に来て頂けるように、ご家族へ働きかけを行っていく。

13. 生活相談員の業務を振り返って

看取り介護の取り組みについて、医療機関との調整に時間を要し、新規啓蒙活動が困難な年度であった。

但し、医療制度改革に於ける在入院期間短縮に伴う、在宅困難者の受け入れに注視する事ができ、次年度での取り組みに繋げていく。

14. その他

(1) 居室の有効利用

前年度に引き続き、入院される入居者様及びご家族の負担軽減を図る為、居室の有効利用(空床利用)をご家族に提案し、実行した。

重ねて、近隣の緊急性の高い短期入所希望の方々の受け入れを積極的に行い、

入居者様に限らず介護保険をご利用されている皆様が安心してご利用できるよう、関係部署との連携を密にし、日程の調整に努めた。

(2) ご家族への連絡

状態の変化についての報告を各階フロア職員の協力も得られ、相談員不在時の報告を行なえた。相談員勤務時には入院者状況の確認（日中は月曜日、金曜日行い夕方 17：30 以降は毎日）を行い状態変化が見られる場合は逐一報告に努めた。

(3) 保険情報提供

厚生労働省及び、各種外郭機関の情報収集に努め「介護保険」に留まらず「医療、障害保険、障害者年金、自立支援医療受給者証」の情報提供を昨年同様に行った。

15. ケアプラン

【ケアプラン】

個別支援に繋がるケアプランの作成やモニタリングの実施により、入居者様に対して、個別性のある生活の提供が行えている。ユニット会議等での話し合いの実施により、フロア・ユニット内での連携も築けており、ケアプランの作成に伴い情報共有も図れている。身体能力の維持や安全に配慮した機能訓練を取り入れる事や、他者との関りや気分転換を取り入れる等で、身体的・精神的にも配慮したケアプラン作成が行えた。

【カンファレンス】

入居者様一人ひとりに対し、個別性を重視した計画に基づき、各専門職により、それぞれの専門性を生かした意見交換が行えた。また、看取りの振り返りカンファレンスに於いては、事前にユニット内での話し合いの結果を持って臨んでいる事により、フロア職員全体による意見と多職種とでの振り返りカンファレンスを行う事ができた。また、家族からの相談や、今後の方向性の話し合いの場が必要な際には、サービス担当者会議を開催し、家族と多職種による話し合いの場を設け、家族支援に努めた。

【モニタリング】

作成したケアプランの情報を共有化し、フロア職員全体でモニタリングを行った。リハビリを中心としたモニタリングについては、機能訓練指導員を中心とし、担当介護職員も積極的に訓練を実施し評価した。

16. 介護

(1) ケアプラン

入居者様の身体状況の変化において職員間での情報の共有が不十分であり、適切な対応に遅れが生じる事が見られた。今後は、ユニット会議等を定期的で開催し、職員一人一人が入居者様の現状に真剣に向き合い、迅速且つ丁寧にケアプランを作成し、確実に実践していく。

(2) 身体ケア

入居者様の体調管理においては、前年度の反省を生かし、早期の感染症対策によりインフルエンザ感染を防ぐ事が出来た。(インフルエンザ感染 職員一名) 新年度においても早期(十一月～四月)の感染予防に努め、職員一人一人が危機意識を持って発症を未然に防いでいく。

その他には、重大事故(骨折)が二件発生。見つめ直してみますと職員の介護に対する認識の甘さ、油断、知識不足等が原因として挙げられる。新年度においては、職員の介護のスキルアップをはじめ、これらの事故を詳しく分析し、看護師等の他部署の方達の協力を得ながら再発防止に努めていく。

(3) 精神的ケア

入居者様に楽しみのある日常生活を送って頂く為、お誕生日レク、食事レクの開催、また、外食レクにおいても入居者様と一緒に企画開催し、大変喜ばれる様子が見られた。今後は、新たな企画にも積極的にチャレンジし、入居者様のより良い生活支援へと繋げていく。

(4) 環境整備

環境整備においては、職員の意識にも改善が見られ、居室、また、入居者様の使用物である車椅子等の清掃においては、計画的に実施する事が出来た。ただ、各ユニットの浴室、機械浴室においては、清掃が不十分であり、汚れが目立つ状況が見られた。今後は、新年度の清掃計画にしっかり組み込み、清潔保持に努めていく。

(5) その他

厳しい勤務体制が続き、職員一人一人が肉体的、精神的にも疲れている状況の中、お互いを思いやり、助け合いながら業務に取り組む事が出来た。また、新人職員においては、プリセプター制度を実施し、働き続けられる職場環境の整備に努める事が出来た。今後は、プリセプター制度を充実させ、退職者ゼロを目標としていく。

〔10〕 デイサービス

【安心してご利用いただけるデイサービスの運営】

ご利用者様、ご家族様に信頼されるデイサービス作りを目標とした。

【利用内容の明確化】

- ① 新規実調時にサービス利用時の細かな時間及び活動内容の説明。
- ② ケース記録をパソコン及び紙ベースの両方に記載した。

【利用受け入れ態勢の強化】

- ① ご家族様のご希望に合ったご利用曜日を相談にて設定し入浴形態もご本人様の意思に沿って実行受け入れ行った。
- ② 新規ご利用前の見学を進め、ご家族様ご同意の上での契約を行った。

【個別援助の充実】

ご利用者様の多彩なニーズに応えるべく、現存のアクティビティ(集団援助)及び各種体操(集団的訓練)に加え積極的な声掛けを実施し、看護師の指導の下、個別機能訓練(残存能力の維持・強化)を行った。

感染予防に対してはご利用者様来所時には「うがい」・「手洗い」をして頂き感染予防に努め、『清潔な空間の提供』との気持ちを持って取り組み利用者様帰宅後のサニタリー空間のアルコール及び次亜塩素消毒を毎日実践. 今後も引き続き感染予防に取り組む。

【営業内容】

定期的な居宅支援事業所への挨拶を行い競争激化の中利用者獲得に努めた。

【登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
29年度	61	64	62	62	61	61	59	58	57	58	58	60
30年度	60	60	60	60	61	59	57	57	58	58	58	59

【一日平均利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	19.3	19.5	20.1	20.8	21	21.2	20.9	19.3	17.7	17.1	18	18.1	19.4
30年度	18.6	18.6	18.8	18.0	17.7	18	17.4	17.9	18.6	17.5	18.8	19.3	18.3

【延べ利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	483	521	522	541	563	550	542	503	455	392	432	488	5992
30年度	465	502	488	469	479	450	470	465	464	421	452	503	5628

【欠席内容】

	欠席者数	SS利用	都合	入院	他SS利用	体調不良
29年度	1438	313	218	220	288	399
30年度	1360	309	267	266	178	340

〔11〕ショートステイ

【事業報告】

- ・ 利用延べ日数：7,656日(対年間目標：▲9日)
 - 内訳：* 空床利用延べ日数：1,272日(全体：16.6%)
 - * 退所延べ日数：1,160日
- ・ 1日あたりの利用者数：20.98人/日(対年間目標：▲0.02人/日)

・2月と3月において、空床利用の各月実績に対して10%以下の構成となり、特養空き室に対して利用が伸びなかった。

〔12〕居宅介護支援事業所

【その一歩先へ】

30年度、「その一歩先へ」のテーマの如く、新たなマネジメントスタイルを取り入れ、時代の流れに沿ったマネジメントへと転換の一歩を踏み出しました。管理者の変更、人員不足、稼働率の低迷を経ての飛躍等大きな変化の一年でした。これまでは、法人内でも独立した部署であったものの、他部署との連携の見直しを図り、法人内外の連携の強化を図る準備ができました。

○計画実行を経ての課題

30年度計画実行に当たり、「自立支援、利用者本位、専門性の向上、連携・協力、地域福祉」の5項目に対する重点目標は凡そ達成したといえるが、継続的に実行する事に意味があります。又、新たな課題として見出された事項は、「稼働の安定化、専門的職能向上、人材育成と教育、地域福祉活動への参加」です。これらの事項においては、31年度事業計画へ反映すると共に実行実現を致します。

平成 30 年度 事業報告書

2019 年（令和元年）5 月 26 日 発行・印刷

監修・編集 社会福祉法人 芳清会

印刷・製本 社会福祉法人 芳清会

TEL 049-247-7311

FAX 049-247-7312

URL <http://www.houseikai-y.jp/>

E-mail yasenosato@houseikai-y.jp